

日時：2020年3月7日（土）1時30分から4時20分

場所：鶴川市民センター 第2会議室

参加者：10名（新型コロナウイルス対策で、小中高の学校が休校となり、集会等への参加も控える市民が多く、参加者は少なかった。また、予定した鶴川図書館前での署名活動も、全市の図書館が閉館されたこともあり、中止した。カフェは、お茶は各自持参、個包装のお菓子に変更。）

1. 市議会について、田中議員に聞く。

3月26日文教常任委員会で、「アクションプラン」に対する請願について行政報告がなされ、議員質問がある。その後請願提出者の意見陳述という流れになるが、その後また議員質問ができるのか？同日もうひとつ請願が出されるので、まとめて後から質問ができるようになるのか確認する。市民の傍聴は中止。後からの議員質問の場を請願者は傍聴できるのかも確認。「アクションプラン」は教育委員会で承認しているので、質問はしても議会で審議承認は要らない。市議会に議決権はあまりないのが現状である。

文教社会常任委員会メンバー

自民 松岡、いわせ、石川

公明 おんじょう(副委員長)、斎藤

市民クラブ 佐藤 戸塚

保守 おぜき(委員長)

共産 殿村

2. 町田市一般会計について（鈴木）

一般会計が前年度比104%の増に対して、生涯学習関係は軒並み減、86%
使途については、「賑わい作って人を作らず」である。

3. 団地自治会とURとの話し合いについて（富岡）

常任委員会でアンケートを行い、今週金曜日5丁目自治会で説明会が開かれた。5丁目自治会は建て替えより、耐震工事をする方向で話していくことに意見がまとまってきた。商店街の方は、URも商店街の要望をずいぶん入れるようになってきた。建て替えはかなり先になる。図書館も入れることはURとは合意。しかし2022年に図書館閉館となるとどうなるか？

先日ゼルビアの人と高橋副市長が来た時、「南町田のまちライブラリーは本が少ない、あの形はよくない」と言うと、「図書費は出すことになる」と副市長は答えた。

横浜銀行向かいの空き地は、パーキングメーターを付け市民センターと商店街の駐車場になる予定。道路にもメーターを設置する方向。

4. PR 動画企画について（藪田）

鶴川図書館の使われ方と存在価値を映像でわかりやすく市民に訴える。
企画案の説明後、配役を決めてロールプレイをやってみた。
登場人物は、市の偉い人、図書館大好きな市民、あまり本を読まない市民、小さな子どもを持つ母親、図書館職員、一人暮らしの高齢者、まちの一家言ある評論家、の7名。その後、シナリオを検討、強調するところ、「今実現していること、単なる賑わいではなく、人々がこの町に定住する条件としての図書館の存在を出していくこと」を確認し次回また取り組む。参加者より、「今の鶴川図書館が、様々な条件を満たした最高の形」と意見が出された。図書館の原点にたった地域の図書館なのである。

5、休館中の図書館の現状

中央図書館は、エントランスに職員がいて、予約本の受け渡しを行なっている。書架に入ることはできないため、本の受け取りは、数日後になる。こうなって図書館が開館することの必要性を痛感した。小中高が休校になり、こういう時に図書館が閉館というのは残念である。しかし、心温まるエピソードが紹介された。「冒険遊び場も休止された公園に、子どもたちが遊びにきており、鶴川2中の合唱部の生徒数人が歌を歌っていた。「花は咲く」を合唱していると、小学生が「パプリカ歌って！」と注文。中学生が「パプリカ」を歌うと小学生たちは散らばって踊り出した」日頃は触れ合えない子どもたちの交流があったという。

次回の図書館カフェは、4月11日か18日（土）2時から第2会議室にて開会を予定。